

1. がん対策をさらに充実させるために

がんは、日本人の2人に1人が罹る病気である。特に、早期発見、早期治療が有効な疾病でもある。予防が困難な種類のがんに関しては、早期に発見する場の提供を計ることが必要である。

小児の死亡原因の第1位はがんとなっている。その小児がんの中に、「網膜芽細胞腫」という眼のがんがある。国立がん研究センターによると、発症率は出生児1,5万人～1,6万人に1人としており。そして、このがんは、主に2歳未満で発症し、5歳までに95%が診断されている。腫瘍が眼球にとどまっている場合は、眼球を摘出せずに、可能なかぎり残す方針で治療することができるため、早期発見が非常に重要といわれている。

また、男性特有のがんである「前立腺がん」は、年齢の上昇とともに発生数が多くなり、50歳を超えた頃から増加し、今後も発生数が増えると推測されている。

そこで、次の事項を問う。

- ① 乳幼児に関わる保護者等にむけた「網膜芽細胞腫」検診の啓発及び乳幼児健診時に「網膜芽細胞腫」の検診を行うべきと考えるが。
- ② 「前立腺がん」検診の啓発及び検診補助制度を50歳以上の男性を対象に導入すべきと考えるが。